



小田小だより

平成27年11月号

〒236-0052 横浜市金沢区富岡西1丁目69番1号 TEL 045(775)3011

<http://www-local.edu.city.yokohama.jp/sch/es/koda/>

横浜市立小田小学校

きやつかしように 脚下照顧・・・心もそろろう ～人の靴もそろえて上がる小学生に思いを寄せて～

学校長 木村 昭雄

自宅から歩いて5・6分の所に、体調が悪くなると親身に診てもらえるということで地元では人気の、常に控室は患者さんでいっぱい内科医院があります。

そこにインフルエンザの予防接種を受けに行った時のことです。一人の小学生と玄関先で出会いました。私が先に上がったのですが、その小学生はたくさんあった患者さんの靴を揃えて上がりました。「感心な小学生だな・・・」そんなことを考えながら、自分の名前が呼ばれるのを控室で待っていました。しばらくして「〇〇ちゃん」と看護師さんが、患者さんの名前を呼びました。すると手を挙げて「はい！」と元気な声で返事をして、「こんにちは」と言い診察室に入っていました。

ふとみると靴を揃えて上がった小学生でした。それまでは名前を呼ばれても返事は聞かれませんでした。次の患者さんからは、名前を呼ばれると「はい！」と大きな声で返事をするようになりました。あの小学生を見習っているように・・・。

さて、十年ひと昔と言いますから次の話はふた昔も前のことになります。私が友人三人と福井県にある永平寺という大きなお寺を訪れたことがありました。永平寺は、1244年に道元というお坊さんによってひらかれたお寺です。今から770年前、鎌倉時代のことです。大晦日の除夜の鐘のテレビ放送では、雪化粧をした永平寺が必ず映し出されます。初めて行った永平寺の入口に「脚下照顧（きやつかしように）」と書いた札があることに気がつきました。道元和尚の「脚下照顧」という漢字の意味は、「足下を照らし、顧みよ」ということです。つまり、他に対して理屈を言う前に自分の足もとをよく見て、自己を反省しなさいという意味です。転じて、「履き物をきちんとそろえましょう。履き物をそろえることで、自分の行いをよくみて考えましょう」ということを伝えているのだと、そのときの法話で教えていただきました。

履き物をそろえることには、どんな意味があるのでしょうか。知人のお家に伺ったとき、靴をそろえて脱ぐのは当たり前前の礼儀です。トイレのスリッパは、次の人が履きやすいようにかかどの方を手前にそろえて脱ぎます。次に使う人も気持ちが良いのではないのでしょうか。また、学校の靴入れの靴がきちんとそろえられていると、今日も一日、がんばって勉強しようという子どもたちの心意気が伝わってくるようで嬉しくなります。

長野県円福寺の住職をされていた藤本幸邦さんがこの考えを分かりやすく詩に書かれています。ご紹介します。

はきものを そろえると 心もそろろう 心がそろうと はきものもそろろう
ぬぐどきに そろえておくと はくどきに 心がみだれない
だれかが みだしておいたら だまって そろえておきましょう
そうすれば きっと 世界中の 人の心も そろうでしょう

たくさんあった患者さんの靴を揃えて上がったあの小学生の行為と、「はい！」と思わず見習ってしまったあの小学生の返事は、「脚下照顧」そのものです。否！その深淵に沈む「だれかが みだしておいたら だまって そろえておきましょう / そうすれば きっと 世界中の 人の心も そろうでしょう」というフレーズに込められたものと同様のフィロソフィー（哲理・哲学）であると言っても過言ではないでしょう。

今学期の生活目標は「整えよう！」です。学校と共にご家庭で、地域で取り組んでいただければ有難く存じます。